

- 小学校3年生の時点では、生活習慣や学習態度を身に付けるといった発達段階に個人差が大きい面がある。
- こうした児童が複数在籍する一部の学校では、小規模な学級の方が安定させやすい面があるとの意見もある。
- このため、それぞれの学校の実情に応じた柔軟な対応も必要ではないか。

例)：小学校3年生の段階では、少人数教育について一律の対応とするのではなく、各学校の実情に応じて少人数指導と少人数学級のいずれかを選択できるようにする。

〈平成27年度の少人数教育の現状〉

※配置数は、H27.4.1現在

	小学校(193校)						中学校(81校)		
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
大規模	少人数学級 [小1] 29校 [小2] 35校		少人数指導 108校	小学校英語 教育モデル 事業 (英語専科) 20校			中1・ 35人学級 選択制 40校中 20校選択	中1学級 支援 20校	少人数指導 65校
中規模									
小規模	小学校・学びサポート 15校						中学校・学びサポート 5校		